

① 国指定等  
ア 重要文化財

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
太刀	八幡	柞原八幡宮	昭25. 8. 29	銘国宗 長さ 75. 8cm	鎌倉時代
太刀	〃	〃	〃	銘源国 (以下一字並年号不明) 長さ 108cm	〃
薙刀直シ刀	〃	〃	〃	銘表「国重八幡大菩薩」 裏「天満大自在天神」	鎌倉時代末期～ 南北朝時代
銅造仏像	〃	〃	〃	社伝 阿弥陀如来立像 金剛仏 重さ11. 25kg 像高30. 3cm	白鳳時代
木造普賢延命菩薩坐像	〃	大山寺	昭50. 6. 12	榿材 像高 87. 7cm	平安時代
後藤家住宅	荷尾杵	個人所有 (大分市)	昭50. 6. 23	18世紀中頃の庄屋の母屋 寄棟造り 茅葺	江戸時代
白壇塗浅葱糸威腹巻 兜・大袖・小具足付	八幡	柞原八幡宮	昭55. 6. 6	胴高 32. 3cm 草摺高 28. 5cm 兜鉢高 18. 0cm	室町時代末期
木造大日如来坐像	上野丘	金剛宝戒寺	平 3. 6. 21	文保2年(1318) 康俊作 檜材寄木造 像高 303. 8cm	鎌倉時代
柞原八幡宮文書	八幡	柞原八幡宮	〃	由原宮領関係史料(213通) 元和7年 (1621)	平安・鎌倉・ 南北朝・室町・江戸
帆足家伝来田能村竹田関係資料	大分市 美術館	大分市	平 6. 6. 28	紙本墨画淡彩花卉図外25点	江戸時代
柞原八幡宮	八幡	柞原八幡宮	平23. 6. 20	本殿・東宝殿・西宝殿・申殿・拝殿・楼 門・西門・南大門・東回廊・西回廊 の10 棟 附として宝蔵、八王寺社	江戸時代～ 明治時代
大分県府内大友氏遺跡出土品	大分県立 埋蔵文化財 センター	大分県	令 1. 7. 23	大友氏居館周辺の町屋や寺院跡での出土品 計1269点。中国や朝鮮半島、東南アジア産 の陶磁器、キリスト教に関わるメダイ、ガ ラス製のコンタ。	戦国時代
紙本淡彩稲川舟遊図	大分県立 美術館	〃	昭37. 6. 21	田能村竹田筆 文政12年(1829)の作。	江戸時代
絹本著色歳寒三友雙鶴図	〃	個人所有	昭38. 7. 1	田能村竹田筆 天保3年(1832) 頼山陽 雲 華 角田九華の賛がある。屈曲する梅の幹 の下に双鶴を配し、椿竹を添える。	〃

イ 史跡

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
豊後国分寺跡	国分	個人所有 大分市	昭 8. 2. 28	国分僧寺 追加指定 (昭58.9.8 昭61.5.28)	奈良時代
大分元町石仏	元町	共有 (大分市)	昭 9. 1. 22	薬師如来坐像は11世紀後半頃～末の作風。 昭46、52、53、61年～平7年、平23～27年に 保存修理。	平安時代
高瀬石仏	高瀬	個人所有 (大分市)	〃	石窟を彫り込み奥壁に東を向いて彫られる	平安～鎌倉時代
千代丸古墳	宮苑	〃	昭 9. 5. 1	装飾古墳 横穴式石室	古墳時代後期
築山古墳	本神崎	八幡神社	昭11. 9. 3	前方後円墳 箱式石棺	古墳時代中期
古宮古墳	三芳	大分市	昭58. 5. 11	石棺式石室墳 九州では他に例なし	終末期古墳 (7世紀)
亀塚古墳	里	〃	平 8. 3. 28	前方後円墳 全長約116m	古墳時代中期
大友氏遺跡	顕徳町・元 町・ 上野丘他	〃	平13. 8. 13	大友氏館跡のほか、旧万寿寺地区、上原館 跡、唐人町跡、推定御蔵場跡からなる。	戦国時代
横尾貝塚	横尾	〃	平21. 2. 12	縄文時代の集落の移り変わりが復元でき る。 縄文時代からの地形と自然がよく残されて いる。	縄文時代
里官衙遺跡	里	個人所有 大分市	令 4. 11. 10	大分市東部に位置する飛鳥時代から奈良時 代にかけての官衙遺跡。	飛鳥時代～奈良時代

ウ 天然記念物

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	指定年月日	摘要	参考
柞原八幡宮のクス	八幡	柞原八幡宮	大11. 3. 8	自生のクス 樹高約30m 幹囲約18.5m	
高崎山のサル生息地	神崎	大分市	昭28. 11. 14	都市近郊におけるニホンザルの自然的集団	

エ 無形民俗文化財 (記録選択)

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	選択年月日	摘要	参考
鶴崎踊	鶴崎	保存会	昭61. 12. 17	記録保存の措置を講ずべきものとして選択	※県選択無形民俗文化財 ※市指定無形民俗文化財

オ 登録有形文化財

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	登録年月日	摘要	参考
大分銀行赤レンガ館 (旧 二十三銀行本店・旧府内会 館)	府内町	(株)大分銀行	平 8. 12. 20	鉄筋コンクリート造2階建 スレート及び瓦 葺	大正2年(1913)
太田缶詰工場主屋	白木	(株)秀観	平11. 6. 7	木造2階建 寄棟造 洋風の玄関特徴 接客 用座敷や和室の居住部分と工場事務室併設	明治41年(1908)
太田缶詰工場土蔵	〃	〃	〃	切妻造の2階建て 外壁漆喰仕上げ	〃
太田缶詰工場石倉	〃	〃	〃	外壁周りを石造 軒周りに漆喰仕上げ 正面左右に2つ出入口があるのが特徴	大正時代
荻本家住宅主屋	坂ノ市	個人所有	平17. 7. 12	木造平屋建一部2階建 瓦葺 建築面積244㎡	江戸時代末期
帆足家分家住宅 「松石不老館」主屋	中戸次	〃	平17. 11. 10	入母屋造、棧瓦葺、木造2階建 通り土間を もつ商家建築の形式	明治39年(1906)
帆足家分家住宅 「松石不老館」新座敷	〃	〃	〃	寄棟造、棧瓦葺、木造平屋建 南側に広縁 をとり中庭を望む門及び塀は棧瓦屋根	明治時代中期
帆足家分家住宅 「松石不老館」道具蔵	〃	〃	〃	切妻造、棧瓦葺、土蔵造2階建 切石積みの上 に建つ 海鼠壁	〃
帆足家分家住宅 「松石不老館」質蔵	〃	〃	〃	切妻造、棧瓦葺、土蔵造2階建切石積みの上 に建つ 海鼠壁棧瓦屋根の板塀及門	〃
帆足家分家住宅 「松石不老館」湯殿及び風呂	〃	〃	〃	湯殿を南北棟、風呂を東西棟とし、両棟が 接して建つ寄棟及び入母屋の屋根、共に棧 瓦葺	〃
帆足家分家住宅 「松石不老館」井戸上屋	〃	〃	〃	切石積み基壇の上に四方に柱を立て、切 妻造、棧瓦葺 切石を長方形の井桁に組む	〃
帆足家分家住宅 「松石不老館」穀物蔵	〃	〃	〃	切妻造、棧瓦葺、土蔵造2階建 引戸口2箇 所 全長に吹き放ちの下屋 切石積みの上 に建つ	明治22年(1889)
帆足家分家住宅 「松石不老館」味噌蔵	〃	〃	〃	切妻造、棧瓦葺、木造平屋建 下屋北側2間 半分を壁で囲む 切石積みの上に建つ	〃
帆足家分家住宅 「松石不老館」裏二階	〃	〃	〃	寄棟 棧瓦葺 木造2階建 裏木戸中央に一 間幅の観音開きの木戸口	明治中期
帆足家分家住宅 「松石不老館」門	〃	〃	〃	間口は2.7m、棟門の形式 棧瓦葺、木造 両脇に塀を続け、門脇に潜戸を設ける	〃
帆足家分家住宅 「松石不老館」塀	〃	〃	〃	切石積みの上に建ち、腰を下見板張り、上 部を真壁造、漆喰塗り 2箇所格子窓、棧瓦 葺屋根	〃
帆足家本家住宅 「富春館」主屋	〃	〃	平18. 11. 29	木造2階建 一部平屋 入母屋造 棧瓦葺 南側中央式台玄関を設け 西側に一段高い 座敷	慶応元年(1865年)
帆足家本家住宅 「富春館」宝蔵	〃	〃	〃	土蔵造2階建 切妻造 棧瓦葺 1階2室2階1 室外壁漆喰ぬり 腰を海鼠壁	大正時代
帆足家本家住宅 「富春館」質蔵	〃	〃	〃	土蔵造2階建 切妻造 棧瓦葺 1階2室2階1 室外壁漆喰ぬり 腰を海鼠壁	大正5年(1916)
帆足家本家住宅 「富春館」洋館	〃	〃	〃	木造2階建 寄棟造 棧瓦葺 南側に洋室 東側に店舗を付属 モルタル壁 石造風	〃
帆足家本家住宅 「富春館」離れ	〃	〃	〃	木造平屋建 寄棟造 棧瓦葺 南側に廊下 北側中央に8畳座敷 書院風のつくり	昭和12年(1937)
帆足家本家住宅 「富春館」表門	〃	〃	〃	質蔵と洋館の間に建つ 二間幅の棟門 木 造 切妻造 棧瓦葺 両脇に袖塀	江戸時代末期

帆足家本家住宅 「富春館」中門	〃	〃	〃	主屋式台玄関の西側 間口1間 木造腕木門 切妻造 棧瓦葺 両脇に袖壁	〃
帆足家本家住宅 「富春館」塀	〃	〃	〃	主屋南側の庭の南側と西側を囲い、質蔵北 西隅から宝蔵南まで延びる。南東隅に腕木門	大正時代
浄土寺本堂	王子西町	浄土寺	平20. 10. 23	木造平屋建 入母屋造 本瓦葺 大規模な 七間堂	嘉永2年（1849）
浄土寺庫裏	〃	〃	〃	木造2階建 寄棟造妻入棧瓦葺 床つきの座 敷・奥座敷	江戸時代後期・ 末期改修
浄土寺玄関及び渡廊下	〃	〃	〃	木造平屋建 本堂と庫裏を繋ぐ 入母屋屋 根の玄関	江戸時代末期
浄土寺大弁財天石宮	〃	〃	〃	石造 庫裏の西北 庭園内に建つ 一間社 流造	明治44年（1911）
浄土寺一伯公廟	〃	〃	〃	木造平屋建 入母屋造妻入棧瓦葺 松平忠 直の墓碑を安置する	江戸後期 大正14・昭和49移築
浄土寺表門	〃	〃	〃	木造 左右袖塀付 本堂正面に建つ四脚門	明治時代後期 昭和26改修49移築
浄土寺北門	〃	〃	〃	木造 瓦葺 柱上に皿斗を置き、その上に 台輪をまわす	大正14年（1925） 昭和49年移築
植木家住宅主屋	王子中町	個人所有	平22. 5. 20	木造2階建入母屋造 1階に出格子彫刻入持 送り市内中心部に残る数少ない商家 安政元年（1854）	安政元年（1854）頃
植木家住宅離れ	〃	〃	〃	入母屋造棧瓦葺 床・棚・書院を構え 意 匠に凝る	昭和4年（1929）
植木家住宅離れ控えの間	〃	〃	〃	入母屋造、棧瓦葺、床・違棚・平書院をつ け、下屋庇の意匠が数寄屋風。渡り廊下が 付随する。	〃
旧豊予要塞司令官官舎	佐賀関	〃	平30. 11. 2	大正15年（1926）に発足した豊予要塞の司 令官官舎。大正14年（1925）から大正15年 （1926）頃の建築で、洋風の暖炉のある応 接間がある。	大正14年（1925）～ 大正15年（1926）頃
関崎灯台	〃	海上保安庁	令 4. 6. 29	全鉄造の円筒形の灯塔に平面扇形平屋建て の付属舎が付く。全国で4基のみ現存する明 治時代の全鉄造灯台の一つ。鉄造3階建て、 高さ11m。	明治34年（1901）
旧大分県立大分図書館 （アートプラザ）	荷揚町	大分市	令 4. 10. 31	建築家磯崎新の初期代表作。鉄筋コンク リート造三階建て、地下一階の図書館建 築。	昭和41年（1966）

カ 登録記念物

名称または物件	所在地	所有者 (管理団体)	登録年月日	摘要	参考
黒ヶ浜及びビシャゴ岩	大黒	国	令 5. 3. 20	蛇紋岩の黒石に覆われた海岸で、江戸時代 から地誌等に紹介されるなど、古くから景 勝地として知られている。	